

業績ハイライト

2022年3月期の決算

当行単体の業績につきまして、経常収益は、貸出金利息が前期比12百万円増加したことや、有価証券利息配当金が8億7百万円増加したことに加え、役員取引等収益が3億27百万円増加したこと等により、前期比28億62百万円増加し360億21百万円となりました。

経常費用につきましては、貸倒引当金繰入額が9億32百万円増加したものの、営業経費が18億28百万円減少したこと等から、前期比16百万円減少し293億78百万円となりました。

この結果、経常利益は前期比28億78百万円増加し66億43百万円となりました。

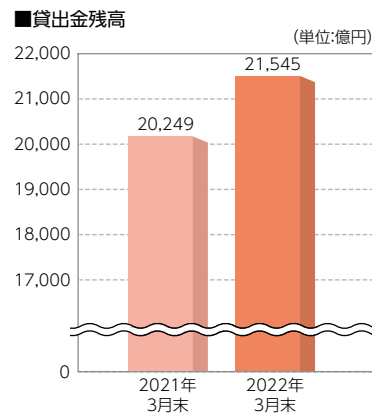
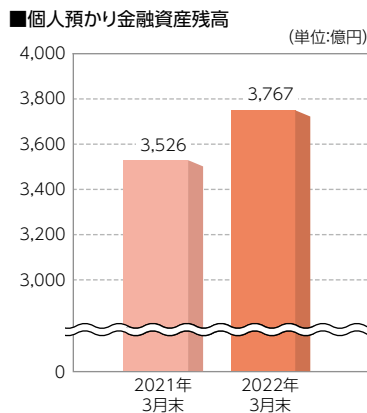
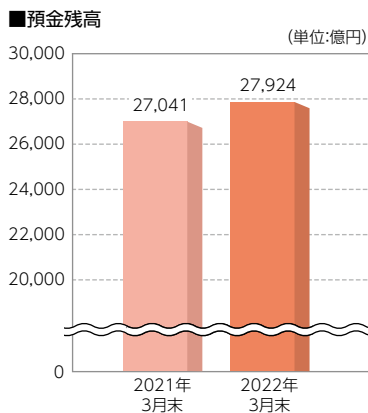
また、当期純利益につきましては、経常利益の増加を主因に、前期比17億24百万円増加し40億40百万円となりました。

なお、連結経営成績につきましては、連結経常収益で前期比27億8百万円増加の438億61百万円、連結経常利益で前期比27億62百万円増加の69億75百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で前期比16億11百万円増加の40億76百万円となりました。

預金・貸出金等の状況

2022年3月末の預金残高は、個人預金が674億円、一般法人預金は103億円伸びたことで、前期末比882億円増加し2兆7,924億円となりました。

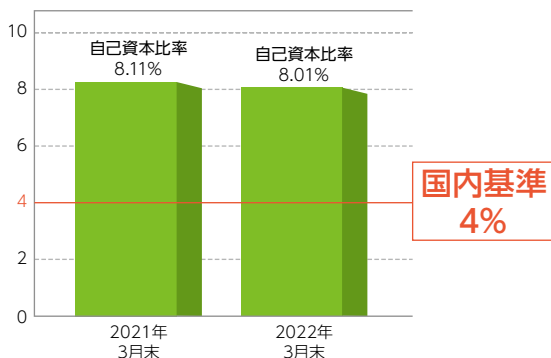
貸出金残高に関しましても、政府系向けや中小企業さま等への貸出が増加したことで、前期末比1,295億円増加し2兆1,545億円となりました。



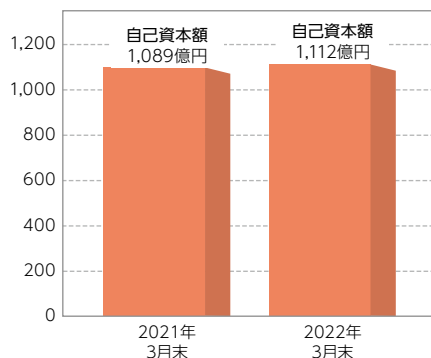
自己資本比率

自己資本比率(国内基準)は、前期末と比べて利益の積み上げ等により自己資本の増加があったものの、リスクウェイトの高い貸出金の増加を主因にリスクアセットの増加があったことにより、前期末比0.10ポイント減少し8.01%となりました。

■自己資本比率(国内基準)



■自己資本額(国内基準)



不良債権の状況

債権総額中に占める金融再生法開示債権(いわゆる不良債権)の比率は、2021年3月末の2.09%が2022年3月末には2.04%となりました。

なお、当行は部分直接償却を行っておりませんが、部分直接償却を行った場合のこの比率をみますと、2022年3月末で1.86%(2021年3月末では1.90%)となっております。

■2022年3月末の不良債権の状況

